

「国境の島サミット」議事概要

日時：2017年7月27日(木) 10時30分～11時20分

場所：三田共用会議所 第4特別会議室

1. 開会挨拶

甲斐事務局長より開会の挨拶があった。その主要な内容は以下のとおり。

- ・本サミットには、特定有人国境離島を有する8都道府県の方々、また29市町村のうち26市町村の方々にご参加いただいている。
- ・4月に有人国境離島法が施行された。それに伴い、交付金制度の設立など様々な施策が進められている。本サミットを、これらの施策を加速させる大きなきっかけとしたい。
- ・本日は、アドバイザーも含めた参加者の皆様に国境の島憲章に合意していただく。また、本取組にご賛同いただいている民間企業からもプレゼンテーションをしていただく。
- ・皆様と一緒に特定有人国境離島にまつわる大きなムーブメントを起こしたい。

2. 資料説明

佐藤参事官より国境の島憲章(案)についての説明があり、続いてシンボルプロジェクト及び民間企業による自主的なプロジェクトの紹介が各資料に沿って行われた。

3. 討議

参加者間で、国境の島憲章(案)等について意見交換が行われた。その主要な内容は以下のとおり。

- ・特定有人国境離島を有する自治体として、国境の島憲章に合意できることを嬉しく思う。また、全国規模でプロジェクトを展開する基盤ができ、非常に頼もしく思うと同時に、自分たちも積極的に加わっていききたい。(礼文町長)
- ・対馬府中藩の初代藩主である宗義智公は、「島は島なりに治めろ」という言葉を残している。国境の島憲章の制定などにより、義智公が言うような、それぞれの島の特色を活かした活性化が進められるのではないかと期待している。(対馬市長)

- ・人口が数十名しかいない島もあり、無人島となる危険性もある。今般の取組の中で様々な活性化策を講じていただき、島が存続していけばと期待している。(三島村長)
- ・制度を活用することで海士町から境港までの運賃が安くなるというだけでなく、輸送コストも安くなるため、期待は大きい。この制度を活かすため、今後は自分たちで知恵を出していきたい。(海士町長)
- ・国境の島活性化七箇条は素晴らしいアイデアである。しかし、離島住民や行政が協働しても限界があることから、経験豊富なアドバイザーの方々にお手伝いをいただきたい。(萩市長)
- ・非常に有意義な取組が発足し、感謝している。本取組を機に、国境離島としての地域の歴史を日本全国の方々に知ってもらい、国境離島に行ってみよう、国境離島のものを食べてみようという気持ちを喚起したい。(奥尻町長)
- ・沖縄や奄美大島は占領された歴史もあり、独自の振興法がある。今回のプロジェクトを契機に、その他の島も同じ日本であり、離島も本土も同じ国土を守る者として共通認識を持ってもらえればと思う。(西之表市長)
- ・今ほど国民の目が国境離島に向いているタイミングは他に無く、この機を必ず活かさなくてはならないという気概を持ち、今後も取組を進める。(彦根市長)
- ・ロゴマークの紹介の中で、本プロジェクトを国民運動にするというお話があった。十島村においては、交通の利便性の悪さを解決することが島民の機運の醸成に繋がるものと考えているため、有人国境離島法等を活用し国の支援を受けながら、この点に取組みたい。(十島村長)

4. 国境の島憲章への合意

参加者一同が国境の島憲章に合意した。

5. 松本大臣へ「国境の島憲章」手交（鹿児島県十島村長）

鹿児島県十島村肥後村長より松本海洋政策担当大臣へ国境の島憲章が手交された。

6. 松本大臣から激励の言葉

松本海洋政策担当大臣よりお話があった。その主要内容は以下のとおり。

- ・日本にとって国境の島々が果たす役割は大きく、改めてその重要性を痛感している。

- ・本プロジェクトの開始に伴い、各島の活性化に向けた取組が本格化する。自身の心がけは「できることよりもやりたいことをやる」であり、皆様にも、ぜひ新しい取組に積極的に挑戦してほしい。
- ・力を合わせて、本プロジェクトを推進していく。

7. 閉会

以上